

主の洗礼 マタイ 3：13～17 私の洗礼とイエス様の洗礼

今日は2つの洗礼のお話をします。1つ目は、私の洗礼についてです。大学生の時、スポーツで挫折した私は、知り合いの勧めで四ツ谷のイグナチオ教会に行きました。生まれて初めて与った朝ミサが終わって、そのまま席に座っていました。当時の私は、坊主頭でガリガリに痩せていました。刑務所から出てきた人に見えたかもしれません。思いつめた雰囲気があったと思います。すると、後ろに座っていたご婦人が声を掛けてくれました。「あなたの願い事が叶えられるといいわね！」 「あなたの願い事が叶えられるといいわね！」 見ず知らずの人から「あなた」と呼びかけられました。何を願ったらいいのかもわかりませんでした。心の深いところには「望み」がある、と教えてもらいました。その「望み」が叶えられるように応援しましょう、と言ってくれました。その声を聞いたときに「洗礼を受けよう！」と決心してしまいました。生涯に一回きり、このような言葉を掛けていただきました。「あなた」「願い事」「叶うといいわね」 漠然ですが、生きる希望をもらいました。自分では理解の及ばない世界にご婦人の声は引き入れてくれました。みなさんにも信仰生活に引き入れた言葉があるでしょうか？

2つ目は当時の洗礼とイエス様の洗礼についてです。当時は、洗礼のとき川に全身を浸しました。場合によっては息ができなくなるほど水の中で苦しい思いをした後、引き上げられました。古い自分に死んで新しく生まれ変わる、擬似体験をしていたのでしょうか。その洗礼を受けに洗礼者ヨハネのもとに、ユダヤ全土から押し寄せていました。貧しくてもまっすぐな人たちでした。神殿で捧げ物を買うのに子羊一匹でも大した額になります。罪の赦しのために自分の身代わりに差し出す動物がありません。だから、大多数の人は神殿に行けません。貧しいから救いから外されていました。そんな人たちが、罪の赦し・救いのために並びました。大勢だったので何日も順番待ちしたかもしれません。

イエス様もその列に加わります。そして、天からの声を聞きます。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」 イエス様は、神様について語る時、ほとんど「父よ」と呼びかけます。「アッバ父よ」は「大好きなお父ちゃん」という親しさを込めていました。父なる神、おん父にイエス様は全幅の信頼を置いていました。そして、今回は天からお父さん(父なる神様)の声を聞きます。

以前に“主の祈り”でお話ししましたが、「父よ」という呼びかけと「わたしの子よ」という返事はセットです。「父よ」と呼びかけるとき、①親しみを込める、②わたしに必要なものを神様はご存知だという安心、③神様から自分は大切だという自己肯定感、④試練にあっても共にいてくださる感覚を込めます。この4つの思いへの返事が「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という天からの声です。「父よ」と呼びかけ「わたしの子よ」と返事がある。このやり取りが起きるように願いましょう。

最後に、イエス様にどうして洗礼が必要だったのか？ 考えてみます。イエス様は罪を全く犯されなかったため、罪のゆるしのための洗礼は必要ありませんでした。ご自分は罪を犯してないけれど、わたしたちの罪を連帯して担うために水に沈みました。洗礼から免除される、特別扱いを拒むだけでなく、罪を肩代わりするためにイエス様は洗礼を受けられました。

わたしにとっての洗礼、イエス様の洗礼がわたしにとってどんな意味があるのか？ 振り返ってみましょう。